



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 ネクストウェア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4814 URL https://www.nextware.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)豊田 崇克
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員 (氏名)渡邊 博和 (TEL)06-6281-9866
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	2,098	△4.7	△71	—	△15	—	△24	—
2022年3月期第3四半期	2,202	3.9	32	—	62	—	715	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △24百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 715百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△1.91	—
2022年3月期第3四半期	56.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,782	1,479	83.0
2022年3月期	2,097	1,542	73.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 1,479百万円 2022年3月期 1,542百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	3,000	2.8	30	△42.6	60	△34.8	30	△95.6	2.36	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	13,015,222株	2022年3月期	13,015,222株
2023年3月期3Q	308,719株	2022年3月期	308,719株
2023年3月期3Q	12,706,503株	2022年3月期3Q	12,706,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、緩やかに持ち直しています。一方、先行きにつきましては、ウィズコロナの下で、景気が持ち直していくことが期待されますが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっています。

当社グループが所属する情報サービス産業におきましては、新型コロナウイルス対策を契機とした企業の働き方改革への取り組みを背景に社会のデジタル化が加速しており、競争上の優位性を確立するDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の需要が引き続き旺盛です。

当社グループは、ソリューション事業において、急速に変化するデジタル社会に対応すべくRPA・AI・顔認証等新たなソリューションによる新規顧客の開拓に邁進しました。また、エンターテインメント事業においては、100周年記念事業に加え、コンテンツ映像配信をはじめエンターテインメントと当社独自のDXソリューション技術の融合による新たなサービスが顧客増加につながりました。2021年9月に株式を譲渡した子会社の連結除外等により、前年同四半期に比べ減収減益となりましたが、子会社売却で得た資金を積極的にDX事業へ投資しており、事業転換を図っております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,098百万円（前年同四半期比4.7%減）、営業損失は71百万円（前年同四半期は32百万円の利益）、経常損失は15百万円（前年同四半期は62百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は24百万円（前年同四半期は715百万円の利益）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ソリューション事業

2021年9月に株式を譲渡した子会社の連結除外、既存顧客の大型案件が進捗遅れになった影響等により、前年同四半期に比べ減収減益となりました。

一方で、顔認証を利用した出退勤連携や顔認証付きカードリーダー（マイナンバーカード対応）の受注等弊社独自の顔認証ソリューション群・AI（人工知能）を中心としたスマートビジネス事業が堅調に推移しており、11月に販売開始を発表した「万引き防止ソリューション」は流通・小売業界大手への導入も始まり、今後の販売活動を通じて、より安心で安全な社会づくりを進めてまいります。

防災システムにおいては、近年の異常気象（大規模な台風、局地的な豪雨、線状降水帯、異常高温状況等）による災害発生の危険度や災害による被害等、配信される情報を活用するため、防災監視系システムの整備に注力致しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は1,810百万円（前年同四半期比9.6%減）となり、セグメント損失は43百万円（前年同四半期は61百万円の利益）となりました。

② エンターテインメント事業

連結子会社の株式会社OSK日本歌劇団は、42周年を迎えた「たけふレビュー」公演はコロナの影響を受けずに3年ぶりに1か月間上演できました。

また、中規模ミュージカル「五右衛門」「近松TRIBUTE」を制作し上演いたしました。地方公演では、北海道苫小牧市公演、栃木県真岡市公演、大阪府枚方市公演を上演することで、コンテンツ映像配信事業の顧客獲得にも貢献しております。

OSKは昨年創立100周年を迎えることができました。今年は大阪松竹座100周年事業に続き、10月にはNHK連続テレビ小説「ブギウギ」が公開されます。ヒロインのモデルである笠置シズ子さんは当劇団に在籍しておられ、OSKの社会における知名度向上に期待しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は288百万円（前年同四半期比44.6%増）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期は28百万円の損失）となりました。

なお、本セグメントにおいて新型コロナウイルス感染症に係る補助金等25百万円（前年同四半期は25百万円）を助成金収入として営業外収益に計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,782百万円となり、前連結会計年度末に比べて314百万円減少しました。これは主として、流動資産その他が166百万円、仕掛品が13百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が

315百万円、有価証券が100百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が67百万円それぞれ減少したことによります。

負債合計は302百万円となり、前連結会計年度末に比べて252百万円減少しました。これは主として、流動負債その他が13百万円増加した一方で、未払法人税等が218百万円、支払手形及び買掛金が26百万円、長期借入金が14百万円それぞれ減少したことによります。

純資産合計は1,479百万円となり、前連結会計年度末に比べて62百万円減少しました。これは、利益剰余金が86百万円増加した一方で、資本剰余金が149百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の情報サービス産業においては、競争上の優位性を確立するDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の需要が継続することが見込まれます。

そうした背景の中、当社グループは、これまでに投資を行った各社とDX事業を進めております。スマートフォンとサブディスプレイを接続し、且つ双方向連携を実現するソフトウェア技術の発展的活用の検討を始め、ドローンやロボットによる物理作業の自動化、各種工程へのインテグレーション提案等、当社が取り扱うDX戦略の次世代化を図っております。直近では、秘密分散技術を搭載する「インテグリティ・ドローン」は、顔認証と当社が持つ固有のデータベース技術を組み合わせた提案を行っております。

当第3四半期連結累計期間は前年同四半期に比べ減収減益となりましたが、通期では、ソリューション事業における一部の大口顧客案件やエンターテインメント事業における大規模公演の上演等の収益計上を見込んでおります。

これらの状況から、通期連結業績の見通しにつきましては、2022年5月16日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	985,623	669,933
受取手形、売掛金及び契約資産	458,601	390,915
有価証券	100,000	-
商品及び製品	2,923	2,576
仕掛品	13,091	26,096
その他	59,250	225,997
流動資産合計	1,619,491	1,315,519
固定資産		
有形固定資産	102,226	102,504
無形固定資産		
のれん	23,564	20,809
その他	26,376	23,354
無形固定資産合計	49,940	44,163
投資その他の資産	326,003	320,523
固定資産合計	478,170	467,192
資産合計	2,097,661	1,782,711
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	105,001	78,177
1年内返済予定の長期借入金	30,216	21,750
未払法人税等	219,698	813
その他	141,050	154,146
流動負債合計	495,966	254,886
固定負債		
長期借入金	44,396	30,200
退職給付に係る負債	8,035	7,673
資産除去債務	5,509	5,510
その他	1,541	4,575
固定負債合計	59,481	47,959
負債合計	555,448	302,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	378,355	229,198
利益剰余金	△42,481	44,327
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	1,542,213	1,479,865
純資産合計	1,542,213	1,479,865
負債純資産合計	2,097,661	1,782,711

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	2,202,639	2,098,969
売上原価	1,577,400	1,563,069
売上総利益	625,239	535,899
販売費及び一般管理費	592,813	607,187
営業利益又は営業損失(△)	32,426	△71,287
営業外収益		
受取利息	130	192
受取配当金	440	465
業務受託収入	-	24,300
助成金収入	30,692	26,648
その他	2,423	6,482
営業外収益合計	33,686	58,090
営業外費用		
支払利息	754	843
支払手数料	1,405	764
消費税等差額	99	638
その他	1,441	501
営業外費用合計	3,701	2,749
経常利益又は経常損失(△)	62,411	△15,947
特別利益		
関係会社株式売却益	841,952	-
特別利益合計	841,952	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	904,364	△15,947
法人税、住民税及び事業税	191,097	5,847
法人税等調整額	△2,577	2,433
法人税等合計	188,519	8,280
四半期純利益又は四半期純損失(△)	715,844	△24,228
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	715,844	△24,228

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	715,844	△24,228
四半期包括利益	715,844	△24,228
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	715,844	△24,228

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

第2四半期連結会計期間において、株式譲渡によりネクストキャディックス株式会社を連結の範囲から除外し、関係会社株式売却益を841,952千円計上しております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、利益剰余金が715,844千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、利益剰余金が△13,304千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月3日 取締役会	普通株式	38,119	3.00	2022年3月31日	2022年8月16日	資本剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年6月29日開催の第32期定時株主総会における決議に基づき、2022年8月10日付けで当社の資本準備金の額の減少の効力が発生し、資本準備金を352,925千円減少し、その全額をその他資本剰余金に振り替えました。また、当該資本準備金の額の減少により増加したその他資本剰余金のうち、111,037千円を繰越利益剰余金に振り替えて繰越欠損を解消するとともに、その他資本剰余金のうち38,119千円を原資として期末配当を実施しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が149,156千円減少し、利益剰余金が86,809千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が229,198千円、利益剰余金が44,327千円となっております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,003,210	199,429	2,202,639	—	2,202,639
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	18,429	18,429	△18,429	—
計	2,003,210	217,859	2,221,069	△18,429	2,202,639
セグメント利益又は損失(△)	61,166	△28,739	32,426	—	32,426

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,810,605	288,363	2,098,969	—	2,098,969
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	15,737	15,737	△15,737	—
計	1,810,605	304,100	2,114,706	△15,737	2,098,969
セグメント損失(△)	△43,498	△27,789	△71,287	—	△71,287

(注) セグメント損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません